



和館と洋館、池泉回遊式庭園をもつ六華苑。三重県桑名市（撮影／米山淳一）

『西洋館と生活文化』

公益社団法人横浜歴史資産調査会会長・松陰大学教授 古賀 学

横浜山手のベリック・ホールにて第46回歴史を生かしたまちづくりセミナーを開催しました。桑名市の六華苑を始め函館市、神戸市、横浜市から西洋館を生かしたまちづくりの歴史や保存・活用の取り組みについて貴重で意義深い講義をいただきました。

西洋の建築には外国文化の流入口となった港町のように外国人が居住するための西洋館と、西洋文化が様々な形で派生して取り入れられた和洋折衷の住居があります。熊本県天草に白磯という旅館があります。主人が海外での生活から戻り洋館を建てたそうです。平成26年に登録有形文化財に登録。私が宿泊したのは平成元年でしたが、和風建築物と洋風建築物をそのまま引付けたある意味異様な風体に驚かされました。

また、青森県五所川原市にある太宰治の生家に宿泊。今は資料館となっていますが、昭和25年から平成8年まで旅館「斜陽館」として運営されていました。その太宰の生家にも洋風が取り入れられています。たまたま泊まった部屋が暖炉のある洋風の居間の部屋でその床にごろ寝といった感じで泊りました。鎌倉には大正ロマンの風情を味わうことのできる洋館“かいひん荘鎌倉”がありホテルでもない旅館でもない雰囲気を楽しむことができます。村田一郎別邸として大正13年に建てられ、

昭和27年に鎌倉のリゾートホテルとして開業したそうです。

最近では、伝統的建造物である町屋などを再生し主に外国人のゲストハウスなどの宿泊施設として活用するところが増えていきます。外国人にとっては日本の生活文化の一端に触れる最もよい空間であり時間ではないでしょうか。逆文化介入として似たようなものに福生アメリカンハウスがあります。米軍基地からはみ出した兵士のために建てられた住宅で、過去には多くのアーティストなどが居を構えていました。異文化生活へのあこがれが見え隠れします。

西洋館は文化的価値を重視し展示館的な活用の仕方が多くなります。西洋館の活用について考えるとき、大切なのは人と建物の関係において一番生き生きとする魅力的な関係はどこにあるのかということです。やはり異文化の生活と結びつくところにその魅力が最大限発揮されるのではないのでしょうか。様々なイベントやレストラン的使われ方はその1つであるともいえます。

寝る、食べる、遊ぶ、寛ぐ、団欒する、料理する、掃除する。多くの人に見て学んでいただくことも大切ですが、本当に体感したいのは、その建物とともにあった日常の暮らしぶりではないかという気がします。新たな活用の中にそのような日常が垣間見えるとよいかもしれません。



「西洋館はみんなの宝」

公益社団法人横浜歴史資産調査会
常務理事 米山淳一

開催報告

さる9月28日(土)14時から、横浜山手にある西洋館ベリック・ホールにて、横浜市緑の協会と共催で、上記セミナーを開催しました。セミナーには、満席の約50名が参加。内容は三重県桑名市の国の重要文化財に指定されている「六華苑」の苑長・石神教親氏の講演、「山手133番館」を取得・保存する三陽物産代表の山本博士氏の講演につづいて、神戸、函館からお招きした講師と横浜市緑の協会からの事例発表が行われました。これらの発表を受けて、当公益社団法人の常務理事である米山淳一コーディネーターによるシンポジウム、質疑応答が行われ、横浜市都市デザイン室から「歴史を生かしたまちづくり」の取組みについても紹介があり、充実したプログラムとなりました。

●開催日時・場所

- ・期日/令和6年9月28日(土) 14:00~16:30
- ・場所/横浜山手ベリック・ホール

●プログラム

1. 開会あいさつ
公益社団法人横浜歴史資産調査会会長 古賀 学
2. 講演
 - ①『西洋館の輝き』~六華苑の活用事例から
桑名市役所観光課主幹・六華苑長 石神教親
 - ②『山手133番館 保存への道』
三陽物産代表 山本博士
3. 事例発表
 - ①『神戸市北野・山本地区の昨今』
神戸市シティ・プロパティ・リサーチ シニアコーディネーター 浜田有司
 - ②『私が函館で出会ったあんな事こんな事』
函館・元町倶楽部 村岡武司
 - ③『横浜山手西洋館の取組事例紹介』
公益財団法人横浜市緑の協会管理部 管理課 山手西洋館等代表統括責任者 大橋早苗
4. シンポジウム
「西洋館はみんなの宝」 コーディネーター 米山淳一
5. 閉会あいさつ
横浜市都市デザイン室長 光田麻乃



ベリック・ホール

六華苑の紹介と活用事例 (六華苑長・石神氏の講演より)

六華苑(旧諸戸清六邸)は、二代諸戸清六の邸宅として、大正2年(1913)に竣工。池泉式回遊庭園のある敷地内に、鹿鳴館を設計したジョサイア・コンドルが設計した木造洋館を中心に和館も備えた大邸宅で、平成9年(1997)に、国の重要文化財に指定されている。日本の近代建築の父ともいわれるコンドル設計の六華苑。創建110年を迎えた令和5年に「コンドルが日本に残したもの」と題したシンポジウムが行われた。



六華苑

石神氏の講演では、六華苑の紹介と六華苑を中心に市内に残



る近代建築物を観光資源とし地域活性化の一助とする、桑名市の以下の取組が紹介された。

・館内のテーブルコーディネート、市内在住の絵本作家によるワークショップ、アフタヌーンティー、コンサートなど。

山手133番館 保存への道 (三陽物産代表・山本氏の講演より)

山手133番館は、関東大震災後の昭和5年(1930)頃に、外国人向け住宅として建築された建物で、米軍による接収を経て、借家となっていたものが売り出され、三陽物産が取得。取得に至る経緯とその後の調査、横浜市歴史的建造物への認定、修復についてなどが山本氏の臨場感あふれる言葉で語られた。

設計にあたってアントニン・レーモンドの事務所がかかわった可能性や、偶然コンタクトをとることに成功した現在アメリカ在住のかつての居住者から伺った当時の様子など興味深いお話が続いた。また敷地内には、明治期に築造されたブラフ積擁壁が残されており、西洋館とブラフ積擁壁が見られる山手133番館の存在が、古き良き山手地区の景観を伝える貴重なものであることへの理解を深めることができる内容だった。



また敷地内には、明治期に築造されたブラフ積擁壁が残されており、西洋館とブラフ積擁壁が見られる山手133番館の存在が、古き良き山手地区の景観を伝える貴重なものであることへの理解を深めることができる内容だった。



山手133番館

神戸市北野・山本地区の昨今（神戸市浜田氏の事例発表より）

北野・山本地区は「異人館のあるまち」として知られる神戸有数の観光地であるが、1970年代半ばまでは、老朽化した洋風住宅がマンションに建て替わっていき、さほど注目されてもいない住宅地だった。



1977年に朝のテレビ小説の舞台となったことを機に来訪者がふえ、歴史的な洋風住宅を保存し、住環境を向上させ、神戸らしいまちづくりをとという取り組みがはじまり、伝統的建造物群保存地区に指定されるまでが紹介された。伝統的建造物は40棟あまりで、異人館はその8割で、明治中期から昭和初期までのもので、現在も住宅として利用されているのは1/4。

明治、大正、昭和にかけての住宅の変遷がみられる地域として、多くの観光客が訪れることとなった地区だが昨今は、この地区への観光客の入込数は減少傾向にあり、市街観光客が増加しているのに対して、横ばいで推移。観光地としての在り方を見直す時期にきている課題が語られた。

私が函館で出会ったあんな事こんな事

（函館・村岡氏の事例発表より）

函館では、昭和57年（1982）に、元町公園に「旧渡島支庁舎」が整備再生され、この事業をきっかけに歴史的風土を守る会が誕生し、伝建地区指定、景観条例が生まれた。全国的にも早い時期から歴史的な建物を保存活用する取組をはじめてきた函館の事例が、これらにかかわってきた村岡氏の思い出とともに紹介された。

函館に多く見られる擬洋風木造下見板張り建築、海産商の邸宅だったものを再生利用した「旧ペンション古稀庵」や、民家を再生した「カフェやまじょう」。1983年に旧函館中央郵便局舎を再生活用した「旧ユニオンスクエア」は、金森倉庫群はじめ函館の再生活用大型物件のさきがけとなった。

函館は、ベイエリア、五稜郭、そして湯川へと賑わいが移り変わっていて、町を使い捨てている感じがする、との村岡さんの言葉が印象的だった。



旧渡島支庁舎



カフェやまじょう

横浜山手西洋館の取組み

（公益財団法人横浜市緑の協会大橋早苗氏の事例発表より）

はじめに「山手西洋館」とは、横浜市緑の協会が管理する山手本通りの1.4kmに点在する7館の歴史的建造物の総称で、横浜市の公園施設として無料公開されていると紹介があり、歴史資産を生かした集客。賑わいの創出のための取組事例が紹介された。なかでも「花と器のハーモニー」「西洋館ハロウィン」「世界のクリスマス」「山手芸術祭」は4大事業で、各館で取り組んでいる。季節の装飾や各種ガイド、ワークショップ、ギャラリー、講座、コンサートなどの場の提供などもおこなわれている。



世界のクリスマス

セミナーのまとめ

公益社団法人横浜歴史資産調査会常務理事 米山淳一

「西洋館はみんなの宝」から見えたこと

歴史的建造物である西洋館は、開港五都市をはじめ歴史ある町の生き証人として息づいている。しかし、残っているのではなく、残されているのである。歴史を秘めた地域に欠かせない地域遺産であり、みんなの宝物だからである。

「素敵、素晴らしい」などと言ってもこれは結果であり、また手掛かりでもある。誰がどのようにして発見し、残す方向を見つけたのか？ 決定打となった所得保存、これを生かし、管理し、伝え残す仕組みが興味深いのである。

今回のフォーラムでの事例は、様々。桑名市の六華苑のように行政が丸抱えで所有し、運営する形は安定感を感じるし、あわせて地域の誇りとして市民のシビックプライドを醸成する役割を大いに担っている。

一方、横浜市は山手で西洋館を7棟取得し、修理や整備を行い、市の公園事業として位置づけ公開。しかし、保存に至るまでの調査、取得、修理などは、歴史を生かしたまちづくりを推進する都市デザイン室などが力を注ぎ、戦略的に事業を推進してきた。特に234番館（大正期のアパートメントハウス）は、一度はディベロッパーの手に渡った物件を約28億円と言う破格で買い戻している。それは将来に亘る山手の景観保全を見据えた英断であった。

英断といえば山本博士氏の133番館の保存は、お見事である。133番館は、当公益社団と都市デザイン室が担っている「歴史を生かしたまちづくり・市民相談室」の案件として所有者から所得して欲しい等の相談があった。しかし、高額でもあり対処できなかった。時を経て不動産屋の物件となり、これを偶然見つけた山本氏が取得に動き、自らの企業の社会貢献事業センスをもって保存を成し遂げたのである。都市デザイン室は、横浜市認定歴史的建造物として認定、修理にかかる助成金でお手伝いしているが、所有者の負担は巨額であった。今や行政が引き受ける時代では無く、むしろ市民が主役と言う風潮が強い。

函館では、村岡武司氏が赤煉瓦の函館郵便局を仲間と一緒に保存し、クラフトセンターや大人の文化交流拠点を設け注目を浴びた。さらに開発から西洋館などを救い、市民運動を活性化させ重伝建地区に導いている。

近年、神戸市では、行政自らではなく、新たな民間の歴史的資産保全団体を設立し、企業からの支援の受け皿となり歴史的資産を残す仕組みを推進している。

「みんなで残し、伝える」時代が確実に来ている。当公益社団の役割を新たに認識するフォーラムとなった。



シンポジウムの光景

旧モーガン邸再建のため ご寄付のお願い

再建にあたり当公益社団では、再建委員会(委員長水沼淑子)を開催し、再建計画、事業計画等をまとめ、事業を推進中です。再建費用は、日本ナショナルトラストから引き継いだ火災保険金の一部と皆様のご寄付で賄います。目標額は1億円。現在、たくさんのご寄付を賜りつつあります。引き続き皆様のご寄付を心よりお願いいたします。
(常務理事 米山淳一)

個人=5,000円(一口)・団体・企業等=100,000円(一口)
一口から何口でもありたくお受けいたします。ご寄付いただいたみなさまのお名前は、再建した建物室内に掲出させていただきます。
*当公益社団への寄付は、税法上の優遇措置が適用され、所得税(個人の場合)、法人税(法人の場合)の控除が受けられます。詳しくは事務局からご案内しますので、お問合せ下さい。

◆振込先: ゆうちょ銀行◆

口座番号: 00270-4-124271
加入者名: 公益社団法人 横浜歴史資産調査会
※「モーガン邸寄付」と明記をお願いします。

ご寄付をくださったみなさま。ありがとうございます。

●旧モーガン邸再建のための寄付 ●歴史を生かしたまちづくりファンド

佐藤彌右衛門 5,000	渡邊万亜弥 100,000
増淵文男 20,000	(株)ロフル 100,000
(匿名) 100,000	(7月2日~10月末現在 敬称略。単位円)

日本鉄道保存協会 馬路村総会・見学会開催報告

10月18日 総会・講演会
10月19日 見学会(魚梁瀬森林鉄道、鉄道遺産など)

当公益社団法人が代表幹事団体をつとめる日本鉄道保存協会の総会・見学会が高知県馬路村で開催されました。馬路村は、ゆずの里として有名ですが、ゆず栽培以前は、日本三大美杉の産地として栄えました。木材を海辺に運ぶために、村内には森林鉄道が敷設され、村民の生活の足としても活躍しました。時代の流れとともに森林鉄道は、昭和32(1957)年に廃止されましたが、馬路村周辺に残る橋梁や隧道は重要文化財に指定され、平成29(2017)年には、のちにゆずの生産で元気を取り戻した村のストーリーとともに、「中芸のゆずと森林鉄道日本遺産」に認定されました。

馬路村の中心にある木の香あふれる集会センター「うまなび」で総会、講演会を行い、翌日は、魚梁瀬丸山公園で動態保存されている森林鉄道の運転、乗車をたっぷり体験し、橋梁や隧道も見学しました。



魚梁瀬丸山公園にて

受付中!

■歴史を生かしたまちづくり相談室

老朽化、修理費、固定資産税、相続税など歴史的建造物に係るご相談を受付けています。ご相談は、ヨコハマヘリテージ事務局まで。
TEL・FAX 045-651-1730 E-MAIL yh-info@yokohama-heritage.or.jp

■『ヨコハマヘリテイジスタイル 2024年秋号』 ■発行/2024年11月 公益社団法人横浜歴史資産調査会
■事務局/〒231-0012 横浜市中区相生町3-61 泰生ビル405
TEL・FAX/045-651-1730 E-MAIL/yh-info@yokohama-heritage.or.jp
ホームページ http://www.yokohama-heritage.or.jp/



●第21回「旧モーガン邸募金コンサート」共催報告●

旧モーガン邸を守る会が主催する10月14日(月)に開催された上記コンサートに共催しました。コンサートは盛況で、この収益は、旧モーガン邸の修復のために使われます。

〈コンサートの内容〉

開催日時: 2024年10月14日(月・祝) 14:00~16:30
開催場所: 藤沢市民会館小ホール
プログラム: 第1部 菅孝能氏講演「旧モーガン邸の再建に向けて」
第2部 木ノ脇道元氏フルート演奏

■コンサート in ヘリテージ 「ピアノが案内する横浜の歴史とまち Vol.10」 後藤泉さんピアノコンサート開催のお知らせ

10回目を迎える後藤泉さんのピアノコンサート。今回は第18回横浜山手芸術祭への参加で、久しぶりにベーリック・ホールで開催します。ナビゲーターは毎回好評の長谷川正英さんです。
●開催日時: 2025年2月1日(土) 14時開演
●開催場所: 横浜山手ベーリック・ホール
●料金: 3000円(ヘリテージサポート会員は2500円) ●定員: 50名

申込先▶公益社団法人横浜歴史資産調査会へメールまたはFAXで。
メール: yh-info@yokohama-heritage.or.jp FAX: 045-651-1730



■シルクロード・ネットワーク 白川郷フォーラム2024 開催のお知らせ



白川郷旧田島家

今年度のシルクロード・ネットワークのフォーラムは、下記の概要にて白川郷で開催する予定です。詳細は追ってお知らせいたしますが、みなさまのご参加をお待ちしています。

開催日時: 2025年3月8日(土)・9日(日)
開催場所: 岐阜県白川村